

第13回 FM八女番組審議委員会 議事録

1 開催日 平成26年 4月24日（木） 午後4時00分

2 開催場所 FM八女会議室

3 出席者 出席者総数 6名
委員総数 7名

出席委員（2名） 荒川真美 近藤雅哉

レポート提出委員（5名） 青木歳男 酒井裕樹 内藤智浩

吉武信博 篠原加代

放送事業者側出席者（4名） 小柳幸博 中村絵梨香

高木祥平 木下晴菜

4 議題 特別番組 出張生放送「命のヒーローズin八女
～3月3日お雛様にならずに1日消防長になっちゃった！！～」
3月3日（月）10：00～12：00放送分

5 議事の概要 放送事業者が事前にCDに収録し、資料とともに各委員へ届けていた
上記の番組について、モニター後の感想を全委員に述べていただいた。

6 番組内容 八女消防署合同企画（地域情報番組）

7 審議内容

① 番組内容全体について

- ・一般の方とパーソナリティのやり方も含め、良くも悪くも「生」の感じが良く出ていて、非常に面白い番組だった。
- ・聴きごたえがあった。
- ・「生」感が出すぎてしまっていた。番組放送中は「プロ」が、出てくる一般の方を引っ張り、番組として成立させる立場になるので、囁む・言い間違い・ガチャガチャする感じは特に気を付けて欲しい。
- ・慣れた人と慣れていない人との振れ幅が、参加型番組の面白さだと思うので、一般の

方が出演する際は特に意識して欲しい。

- ・企画としては大変面白かった。
- ・声をきちんと拾えていなかったところは、技術的な反省点だと思う。
- ・全体の構成が、広く浅くメリハリが少なかった。
- ・情報の内容・質が、均質だった。カタログ的な話が多く、聴いている方はのっぺりした感じ。
- ・「何を伝えるか」ばかりに気を取られていたのか、伝えたものをリスナーがどう捉えるか、少し置き去りだった。
- ・番組構成はFM八女が責任を持つところだと思う。視点が一方向からになっていたという印象を受けた。
- ・番組のテーマが「消防員の熱い活動や心意気」だと思うのだが、そこをどうやって掘り下げるかというのはFM八女の腕ではないのか。
- ・途中で、火災等の発生で消防署の人たちがいなくなるかもしれないというスリル、その中で様々な消防車や消防の仕組み等の紹介、また人名を守るファイヤーマンの熱き思いなど、聴く人は皆、八女消防本部の皆さんがより身近で頼もしい存在に思えたのではないだろうか。
- ・今回の出張生放送は、住民への消防広報に効果があったと思う。
- ・消防署員のメッセージやリクエストが良かった。出身地などもあれば、もっと親しみが沸くのではないか。
- ・詰め込みすぎた感じがあった。
- ・選曲も番組に合わせていて良かった。

② コーナーについて

- ・始まる際に、「もう良い？」などのコソコソ話しは良くない。
- ・例え話は分かり易くて良かったが、もっと現場の情報が欲しかった。
- ・聞いている人は状況が分からないのだから、「きゃーきゃー」言うのではなく、実況をしっかりと欲しかった。
- ・実際に消防署で起こっている事・やめて欲しい事、歴史的な火事・事件の事、ぶち当たった困難、尊敬する先輩消防署員の行いや心意気などを語ってもらうような部分があっても良かったのではないか。
- ・「業務で大変な事がありますか？」という質問は答えづらい為、やりがい・楽しかった事・嬉しかった事などの前向きな質問をすべき。
- ・放送上電波の乱れなどで聴きづらい事へのお詫びは、もっとしっかりと謝罪すべきだ。謝る時は、謝った方が良い。
- ・一日消防長の挨拶は、何を狙って放送したのか良く分からなかった。

8 審議機関の答申又は意見の概要の公表

公表の方法 自社ホームページへ掲載

9 次回の番組審議委員会

日時 6月25日（水） 午後4時00分

場所 FM八女 会議室

社名	一般財団法人 FM八女
----	-------------